

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	有限会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぷほうむ54番地
所在地	松山市水産町54番地
自己評価作成日	H21年8月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「利用者さんと一緒に作る暮らし」を合言葉に、料理や、おかしづくり、共有空間のアレンジなど、みんなで楽しみながら暮らしに花を添えています。地域に住まい、幼稚園や小学校に子供らが通う職員も多く、幼稚園や小学校、中学校そして、子供たちを含め、地域との交流という面では、有利な条件がそろっています。この強みを活かして、さらに、地域との関係を深めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の前にある天満宮の夏祭りに合わせて、事業所内でスーパーボールすくい等の夜店を出して、地域の方達と交流する機会を作られたり、地区内の他介護事業所で行われる「お砂踏み」や「お芝居」等の行事に利用者とともに参加していただく。小学生が町探検の授業で訪れたり、近くの幼稚園の園児の訪問時にはお遊戯を見せてくれ、利用者は喜ばれた。事業所の入口には自動販売機とベンチが設置されており、通行する方の一休みする場所になっている。
廊下の突き当りに畳を置き、外を眺めて過ごすスペースを作っておられたり、居室の前や廊下の所々に椅子を配し、利用者がお好きな場所で過ごせるようにされている。郵便や牛乳受けに「いつもご苦労さま」とメッセージがあったり、ユニット入口のカウンターには、ご家族へのお願い等のメッセージが掲示されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 大栄 由佳

評価完了日 21 年 8 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 現在、理念の共有が出来ていないため、今後月に一回行っているミーティングで理念を取り上げ、職員全体で話し合っ、理念に基づいたケアを行えるようにしていく予定である。	
			(外部評価) 「尊厳の保持」「自立支援」を理念に掲げておられる。共用空間や事務所に理念を掲示しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩に出かけ、地域の方々と挨拶を交わしたり、お話をしたりしている。 また、幼稚園・小学校・地域などの行事に積極的に参加をしている。 近隣の子ども達が遊びに来てくれることがよくある。	
			(外部評価) 事業所の前にある天満宮の夏祭りに合わせて、事業所内でスーパーボールすくい等の夜店を出して、地域の方々と交流する機会を作られたり、地区内の他介護事業所で行われる「お砂踏み」や「お芝居」等の行事に利用者とともに出かけておられる。小学生が町探検の授業で訪れたり、近くの幼稚園の園児の訪問時にはお遊戯を見せてくれ、利用者は喜ばれた。事業所の入口には自動販売機とベンチが設置されており、通行する方の一休みする場所になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 人材育成の貢献として、実習生や研修生やボランティアの受け入れは積極的に行っている。 電話や来所時等、認知症に関しての相談がある時には対応を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>現在、運営推進会議を行えていない。今後、行えるよ う計画之中である。</p>	<p>事業所では、今後、定期的な会議の開催を計画されて いた。今後は、地域の方やご家族等の出席を増やして いけるよう声かけして、事業所の「考え方や活動」を 知っていただき、ご意見をいただきたいと考えておら れた。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>この一年間、会議の開催は遅れていたが、9月25日 に、市の担当者や地域の方等に案内して運営推進会議 を開催された。会議は事業所の居間で行い、出席者の 負担を軽くするために30分の会議とされていた。会 議では、管理者の交代に伴い、自己紹介や挨拶をはじ め、これまでの活動報告をされた。地区の区長の方か らは、災害時等の地域組織の情報を教えていただいた り、地域サロンの方からは「サロンへ来てください」 と案内をいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>認定更新の機会等に、市町村担当へ利用者の様子を伝 え、協力関係を築くように努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>法人代表者は、県内外で認知症やグループホームの理 解を深めてもらえるよう、研修講師等で活動をされて いる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が外出しそうな時や、外出されている時は、さ りげなく声をかけたり、一緒についていく等、安全面 に配慮しながら、利用者の意思を尊重し、支援して いる。 日々の申し送りやミー ティングで、一人一人の状態を職員全体で把握し、そ の楽しい生活が送れているか確認し合っている。今 後、ミーティングで身体拘束についての勉強会を実施 し、職員の認識を向上させていく予定である。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>管理者や職員は、外部研修受講時に身体拘束について 勉強をされている。管理者は、学んだこと等を日々 の中で職員に伝えるようにされている。事業所では、利 用者が外に出るような時には、「ご本人が納得のいく まで付き添う」ことを心がけておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者が職員の個別面談を行い、不安や不満等かかえていないか、職員の把握に努めている。今後、ミーティングで虐待防止について勉強会を実施し、職員の認識を向上させていく予定である。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について、理解できていない職員がほとんどである。その為、職員からの情報提供等の体制は万全とはいえない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は重要事項の説明を丁寧に行い、事業所で出来ること、出来ないことを明確にし、同意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には、月に一度、利用者の様子を記入したお手紙を送付している。 また、面会時にも、日常の様子を細かくお伝えし、ご家族の意見・不満・要望等の確認を行っている。 (外部評価) ご家族の来訪時や電話、毎月のお手紙でご本人の様子を伝えておられる。事業所内には、利用者の日頃の様子の写真が掲示されていた。管理者がご家族にお電話する際には「ご本人の心身の状態について良くなった点」を先に伝え、「心配なことはないか」聞くようにされている。	管理者は、ご家族とのコミュニケーションを図ることに力を入れて取り組んでいきたいと考えておられた。まずは、事業所の取り組みを知ってもらえるよう、季節ごとに写真を多く採り入れてホーム便りを作成し、ご家族にお送りしたいと考えておられる。ご家族が、具体的なご意見や提案が出せるよう、事業所からの働きかけの工夫や機会作りが期待される。利用する側の立場からのご意見をきっかけにして、さらなる事業所の質の向上への取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを月に一回と定期的な個別面談を行い、職員の意見を聞くようにしている。 また、日頃から、コミュニケーションを図るように心掛けている。	
			(外部評価) 管理者は、事業所で行う活動等について職員に意見を聞き、決定するように努めておられる。又、ミーティング時には、利用者への対応について、意見交換が活発に行われている。管理者は、新人職員に不安なことはないか等、聞き取りサポートされている。職員の提案から、近々外出に出かける予定となっていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者も頻繁に現場に来て、利用者と過ごしたり、職員一人一人に声をかけたりしている。また、管理者と頻繁に連絡を取り合い現場の状況や変化を把握している。 職員の資格所得に向けた支援も行っている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) パート職員にも研修等参加してもらい、その後ミーティングで研修内容を報告し、全職員で情報を共有している。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の事業所同士で連絡を取り、行事への参加をさせてもらっている。職員が交代で利用者と一緒に訪問し、事業所外の様子や情報を活かしてケアにつなげている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談で、必ず本人に会い、心身の状態や状況など、生活状態を把握し、本人の求めていることや不安を理解し、本人の思いに向き合えるよう努力する。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの経緯やサービスの利用状況を把握。家族が求めているものを聞き、事業所として、どのような対応が出来るか事前に話し合い、関係を築くことに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人やご家族の思いや状況等を確認し、利用前に本人の面談に行ったり、見学に来ていただけるように声をかけをしたりして、出来るかぎり柔軟な対応を行えるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側という意識を持たず、共に支えあえる関係づくりに留意している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は、本人の日頃の状態を細かく報告・相談し、変化や異常がみられた場合は電話にて連絡を行い、家族と職員が協力し本人を支えていく関係作りに努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来てくれない限り、馴染みの人や場所とのつながりを継続できていない。 今後は家族と相談していき、馴染みの関係をつなげていけるよう支援を行っていく予定。 (外部評価) 利用者の子どもさんが、他施設に入居されているご家族を連れて来てくれ、会うことができたような方もいる。	さらに、利用者個々の大切にされている人や場所、又、懐かしい場所等も探り、支援につなげていかれてはどうか。ご本人の思いの把握と合わせて、ご家族等とも相談や話し合いを重ね、取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	毎日、食事やおやつ時間は職員も一緒に過ごし、利用者同士がコミュニケーションがとれるように支援を行っている。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退去時は、これまでの生活環境、支援の内容や注意等、情報を提供し連携を心掛けている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	様子観察を行いながら、声かけをし、表情や言葉、口調などから、意向の把握に努めている。また、家族からの情報を得るようにしている。
			(外部評価)	
			事業所オリジナルで「困ったことカード」を作られており、職員一人ひとりが利用者個々について「その月の様子や利用者、職員の困っていること」等を記入するようになっている。日々の介護記録には、利用者の言葉や職員の対応が記録されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	家族からの情報、本人との会話の中からの聞き取りの積み重ねにより、生活歴の情報収集に努めている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	利用者一人一人の生活リズムを職員全員が把握し、ケアが出来るよう、毎朝・夕の申し送りを行い、利用者の状態の確認を行っている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月一回ミーティングを行い、利用者の思いや困ったことを話し合い、本人の現状にあった介護計画を作成している。一人の利用者に対し、二人の職員が、毎月ごとに様子や困った事を記入している。担当は毎月交代し、様々な角度からの情報を収集し、介護計画に反映させている。家族には面会時などに話し、現状報告をして意見を聞くなどしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、担当の職員が作成するようになっていいる。毎月ミーティングで利用者への支援について職員で話し合い、計画は、6ヶ月毎に見直しするようになっていいる。利用者の状態によっては、医師のアドバイスを計画に採り入れておられる。</p>	<p>ご家族の要望や情報、ご本人が何を求めているかということ等、思いの把握に努め、計画に反映していかれてほしい。又、ご家族にも計画作成にかかわっていただけよう働きかけ、ご本人がより良く暮らすための支援について、具体的なご意見や要望が出してもらえよう、取り組みをすすめてみてはどうだろうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎月の利用者の変化や対応したことなどを、介護記録や業務日誌に細かく記入し、必ず確認しサインを行う。月一回のミーティングで話し合い、職員で意見交換を行って、必要時は介護計画の見直しを行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の状態や家族の意向に配慮しながら、取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域が行っている、ふれあいサロンやデイサービスへの参加、他施設の行事への参加など、地域行事へ積極的に参加し、地域の方々との交流を深めるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医や希 望の病院へ受診出来るようにしている。基本的には家 族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が 代行するようにしている。	
			(外部評価)	
			ご家族が受診に付き添われたり、職員が同行されたり、 往診等、利用者それぞれのかかりつけ医に診てもら えるよう支援されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			現在、看護職員はいないが、常に主治医との連携は取 れるようにし、利用者の異常時には、報告・連携・相 談を行うよう支援している。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に 提供し、家族とも回復状況等の情報交換を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			事業所で出来る終末期について細かく説明し、本人や 家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、安心 して納得した最期が迎えられるように支援している。	
			(外部評価)	
			事業所の看取りの方針を示し、入居契約時にはご家族 に説明をされている。利用者の状態変化時には随時、 医師の説明等も受けて、ご本人やご家族が判断できる よう話し合われている。ご家族が遠方からよく来てく ださい、事業所にも宿泊される等、ともに看取られた 事例もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			現在、応急手当の勉強会を実施出来ていない。今後、年に一回は勉強会が行えるよう計画していく予定。夜間等、人手が少ない時の連絡・対応方法については、マニュアルを作成し、把握できている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年二回、消防署の協力にて、利用者と共に避難訓練を行っている。その後に、職員間で話し合いをし、次の向上につなげている。	
			(外部評価)	
			6月に行った避難訓練時には、通報機の使い方を教えてもらったり、職員は、水消火器を使って実際に消火の体験をされた。参加できなかった職員のために、10月にも同じ訓練を行うことにされている。訓練実施後は職員にアンケートを取り、課題を明らかにして次の取り組みにつなげられるようにされている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			一番に本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすいよう声かけを行っている。利用者の情報など守秘義務については、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
			(外部評価)	
			管理者は、「同じ意味のことであっても言葉遣いやイントネーションで伝わり方が変わってくることを繰り返し伝えることによって、職員の利用者への言葉のかけ方がよくなってきた」と成果を話されていた。おやつの際には、利用者に飲み物の好みを聞くようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			一人一人の状態に合わせ、声かけを行っている。意思表示が困難な方や難聴の方は表情を読み取ったり、ホワイトボードで筆談を行ったりと、答えやすく選びやすいように工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にし、それに合わせた対応をしている。その日の体調や気分など様子を確認しながら、本人の気持ちを尊重した支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の生活習慣や好みに合わせ、その人らしさを保てるよう支援を行っている。自己決定が出来にくい利用者には職員が考え、確認の声かけを行うよう努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みや苦手なものを把握し、メニューや味付けを工夫している。旬の食材を使用し、食欲が高まるように心掛けたり、話題につなげて、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。出来る方には様子を見ながら声かけを行い、後片付けなどを職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 週に数日、調理担当の職員が調理されている。季節の物や繊維のものを多く採り入れておられる。職員は、介助の必要な方の隣に座り、会話しながら同じものを食べておれた。利用者の状態に合わせて食材を細かくされたり、おかゆにされている方もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は必ず毎回チェック・記録して、職員が把握している。一人一人に合わせた食事形態にしている。水分量は特にチェックしていないが、必要時にはチェック・記録し、確認している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は声かけ・見守りを行い、出来ない方には職員が口腔ケアを行っている。歯科の協力にて、義歯に名前を入れてもらい、紛失時に他の人と間違わないようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄チェック表に記入し、尿意のない利用者にも定期的に声かけや誘導を行い、トイレでの排泄が可能になるように支援している。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	排泄チェック表に記入し、一人一人の排泄パターンを把握している。便秘の方には、水分補給や乳製品、また、繊維質の多い食材を提供するようにしている。散歩など、身体を動かすことにも気をつけている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	声かけをし、利用者のその日の希望を確認している。行動する前に必ず声かけをし、安心して頂けるよう支援を行っている。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	一人一人の状態や状況に合わせ、休息や午睡を取っていただけるよう支援している。日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を個々のファイルに整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。処方の変更があった場合は業務日誌に記入し、状態変化の観察に努めている。服薬時は、きちんと服用出来ているか職員が確認し、記録をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者が楽しみや役割のある暮らしが送れるよう、お願いできそうな仕事や興味を示された事等を頼み、感謝の言葉を伝えている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 自宅やお墓参りなど、遠距離の場合は家族の協力がなければ難しいが、日常的な散歩や買い物などは、利用者の希望に沿うように努めている。また、季節の地域の行事にも参加をし、楽しみを感じてもらっている。	
			(外部評価) 他施設の行事等に参加されたり、受診や花見時に出かけておられる。又、日々の中では気分が落ち着かない時には、気分転換に外に出られたり、事業所前の天満宮にお参りに行くこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の所持については、ご家族ごとに様々な意向を持っておられ、所持されていない利用者がほとんどである。事業所が管理し、外出時は職員が代わりに支払っている。今後は、自分で支払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしていきたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者からの希望があれば対応を行っているが、職員からの声かけは行えていない。今後は手紙や電話が日常に行えるよう努めていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の草花や手作りのものなどを飾り、季節感をとり入れている。 トイレ・浴室・居室のドアに表札を示し、分かりやすいように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>廊下の突き当りに畳を置き、外を眺めて過ごすスペースを作っておられたり、居室の前や廊下の所々に椅子を配し、利用者がお好きな場所で過ごせるようにされている。イラストの得意な職員の方が掲示物に絵を描き、利用者に喜ばれているようである。又、郵便や牛乳受けに「いつもご苦労さま」とメッセージがあったり、ユニット入口のカウンターには、ご家族へのお願い等のメッセージが掲示されていた。</p>	<p>さらに、事業所には庭や畑もあり、利用者が生活を拓けていけるよう活用していかれてはどうだろうか。利用者がちょっと出てみたくなるような雰囲気作りについても、職員で工夫してみしてほしい。</p>
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにはソファ、廊下には所々に椅子を置き、一人で過ごしたり、仲のよい利用者同士でくつろげるようなスペースづくりを行っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>必ず家族には伝えるが、馴染みの物や思い出の品の持ち込みには差が大きく出ている、必要最低限の生活用品しか持ち込まない方もいる。今後も家族への声かけは続けていく予定である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中は居間で過ごされる方が多く、居室は、寝るときや一休みする際に使用するという方が多い。掃除は、現在、利用者も同席のもと、職員が行っておられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>状況に合わせて、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮したりと、環境整備に努めている。利用者の不安や混乱を招いた場合は、職員で話し合い、他の方法を取り入れ、自立支援に向け取り組んでいる。</p>	